

オルガンの巨匠

# ロレンツォ・ギエルミ

## オルガン・リサイタル

### J.S. バッハ 名曲集

バッハがいま、呼吸をはじめると……

国内最高峰のオルガンで巨匠が届ける、ヨーロッパの教会の響き  
Lorenzo Ghielmi Organ Recital

# BACH

12月20日(水) 前売開始

6/1 [土] 2:00p.m.開演 (1:00p.m.開場)

東京芸術劇場 コンサートホール JP池袋駅 西口すぐ

Saturday, 1st June 2024, Tokyo Metropolitan Theatre Concert Hall

全席指定 ¥3,000 ペアシート ¥5,000 [消費税込、ペアシート券の取り扱いはアレグロミュージックのみ]

お申し込み・お問い合わせ: ☎(03)5216-7131 アレグロミュージック (営業時間: 火、水、木、金の11:00~18:00)

インターネットからのご予約 <https://www.allegromusic.co.jp/>

東京芸術劇場ボックスオフィス (0570)010-296 (休館日を除く10:00~19:00)  
<https://www.geigeki.jp/>

イープラス <https://eplus.jp/> (スマートフォン/PC/マルチコピー機)

チケットぴあ <http://pia.jp> [Pコード: 258250]

主催 ■ 株式会社 アレグロミュージック 提携 ■ 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

後援 ■ 一般社団法人日本オルガニスト協会 / 株式会社 キングインターナショナル

プレリュード 八短調 BWV 546/1

Prelude in c minor, BWV546/1

「いと高き所にいます神にのみ栄光あれ」 BWV 662

"Allein Gott in der Höh sey Ehr, canto fermo in Soprano" BWV 662

「いと高き所にいます神にのみ栄光あれ」 BWV 663

"Allein Gott in der Höh sey Ehr, canto fermo in Tenore" BWV 663

「いと高き所にいます神にのみ栄光あれ」 BWV 664

Trio super "Allein Gott in der Höh sey Ehr" BWV 664

(以上3曲、ライブツィヒ・コラール集より)

協奏曲 二短調 BWV 596

(原曲-A. ヴィヴァルディ op. 3-11)

Concerto in d minor BWV 596 after op. 3-11 by Antonio Vivaldi

プレリュードとフーガ 二長調 BWV 532

Prelude & Fugue in D major BWV 532

「最愛のイエスよ、われらここに集いて」 BWV 731

"Liebster Jesu wir sind Hier" BWV 731

(27のコラールより)

「心よりわれこがれ望む」 BWV 727

"Herzlich tut mich verlangen" BWV 727

「われいずこに逃れゆくべき」 BWV 694

"Wo soll ich fliehen hin" BWV 694

(キルンベルガー・コラール集より)

トッカータとフーガ 二短調 BWV 565

Tocatta & Fugue in d minor BWV 565



# 「ヨーロッパの教会で聴いた パイプオルガンの響きが忘れられないのです!」

受話器の向こう側で必死に訴える女性からの電話を受けたとき、ギエルミのバッハを東京芸術劇場でやらなければ、と決意した。年月が経ってしまったが、8年ぶりにその日がふたたびやって来る。

パイプオルガンは奏者自ら音色をつくり出せる楽器で、そこに奏者のセンスと技量が表れる。ギエルミが名オルガニストといわれる理由は、知的で明るく透明感のある美しい響き、豪壮華麗なパイプの鳴らしっぷり、そしてバロック・オーケストラを思わせる音響が、その巧みなレジストレーション<sup>※</sup>と両手両足の超絶技巧によって芸術的な域で表現されるからに他ならない。

ギエルミのバッハには格別の味わいがある。イタリア人の血がそうさせるのか、彼の音楽にはいつも歌心がある。その歌は独特の色彩感にあふれ、陰翳の深さに格調が滲む。今回は、J.S.バッハのコラールやフーガ、協奏曲など多様な様式のオルガン作品の傑作を集めた。コラールに込められた祈りの心情、トッカータや協奏曲規模の曲を一人で奏でる妙味を味わえる贅沢な構成だ。楽器の機能を熟知し、卓越した技術を身につけたギエルミは、オルガニストとしても活躍したバッハの作品の真価を見せてくれるだろう。

さらに、今回使用するフランスの名工ガルニエの手による東京芸術劇場のパイプオルガンは、中部ドイツ・バロックの様式を取り入れたオルガンである。チューニングは不等分律なバロック調律を用い、ピッチは現代の標準よりも半音低いA=415hzを採用する。このオルガンをギエルミが奏しはじめるとき、作曲者バッハが起き上がり、大きく呼吸をはじめるとは違いない。

ヨーロッパの教会と日本のコンサートホールでは、素材や建築構造が大きく異なる。しかし、その隔たりを超えて、ヨーロッパの教会で鳴り響くオルガンの音色や空気を運んでくれるのがギエルミである。名オルガニストによるバッハ名曲集との出会い、その至福の瞬間がついに訪れる。

あのときの女性にもこのチラシは届くだろうか…?



※オルガンの音色を決める作業  
トランペットやフルートといった  
様々な音色が割り当てられたス  
トップ(写真)を操作して、奏者は  
自分で音色を作る。仕込みは前日  
から行なう。

## Lorenzo Ghielmi Organ Recital



### ロレンツォ・ギエルミ

LORENZO GHIELMI - Pipeorgan

イタリアを代表するオルガニスト、チェンバリスト、指揮者で、ルネサンスとバロック音楽の研究家。現在、ミラノの聖シンプリチアーノ教会オルガニスト。ミラノ国際音楽アカデミー古楽研究所で教鞭を執っているほか、世界中の著名なオルガン・コンクール審査員、またマスタークラスの講師を務める。パーゼル・スコラ・カントールム元教授。イタリアの古楽アンサンブル、イル・ジャルディーノ・アルモニコの初期メンバー。2005年に、自身の古楽アンサンブル「ラ・ディヴィナ・アルモニコ」を結成。ヘンデルのオルガン協奏曲第1集、第2集(両方ともディアパゾン賞受賞)などの録音のほか、数多くのCDをリリース。東京カテドラル聖マリア大聖堂のオルガンの芸術コンサルタントを務めた様子は、2004年NHKハイビジョン特集「パイプオルガン誕生」で紹介された。

お客様のプライベートな時間をより大切にしたいため、弊社主催のコンサートでは開演および休憩後のベルを鳴らしておりません。定時になりましたら、お席へお着きください。



ギエルミが貴重なオルガンで奏でる中世末期の香り

リュースム・オルガンによる中世末期のミサ

ロレンツォ・ギエルミ(オルガン)  
アンサンブル・ピスカントーレス  
録音：2019年5月/ライサム福音改革派教会

●PAS-1065(CD) 直輸入盤/オープン価格



J.S. バッハ：イギリス組曲 BWV806-811

ロレンツォ・ギエルミ(チェンバロ)  
録音：2021年6月/サン・ミケーレ教会(カヴォナ)

●KKC-6554/5(2CD) 輸入盤・日本語帯・解説書付/ ¥4,200(税込)

passacaille



J.S. バッハ：6つのパルティータ BWV825-830

ロレンツォ・ギエルミ(チェンバロ)  
録音：2019年8月/サン・ミケーレ教会(カヴォナ)

●KKC-6365/6(2CD) 輸入盤・日本語帯・解説書付/ ¥4,200(税込)

